

# 印部石 (ハル石)

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押しのお宝を、月替わりでご紹介。

今回は、18世紀に検地のため設置された印部石です。

■ 出土地：普天間古集落遺跡（宜野湾市）

この印部石は、宜野湾市の普天間古集落遺跡から出土したものです。「け いしきや原」という文字が彫られていることから、調査地の原名（ハルナー）である「石川原」の印部石と考えられます。この印部石は碗や皿などとともに廃棄土坑から出土したため、残念ながら本来の設置場所は分かりません。材質は細粒砂岩で、重量は38.6kgあります。

印部石はハル石とも呼ばれ、18世紀に首里王府が検地を行った際に基準点として設置されました。各間切に約200～300の印部石が置かれ、琉球王府はそれを利用して地図も作成しています。印部石は、琉球王国の測量技術や当時の地名などを読み取ることができる貴重な資料です。



現在も残っている印部石  
(うるま市 字江洲)

具志川環状線のトンネル上にある。土手まで残る印部石は、数少なく貴重である。